

1

ふりがな きゅうしんがしがわ(ふるかわ)
 名称 旧新河岸川(古川)

地区 南畑
 東大久保

種別 民俗、景観
 時代 近代～現代

指定



旧新河岸川を「古川」というが、今も残る現存の古川は富士見市からふじみ野市にかけての一部だけになった。ふじみ野市はここをビオトープとして整備しているが、全体を整備して自然の親水公園として活用したい。

2

ふりがな ねかせないこうしんさま
 名称 寝かせない庚申さま

地区 南畑
 東大久保
 (観音寺跡)

種別 民俗、石造物
 時代 近世

指定



屋号「釜屋」の三代目が庚申さまを自分の屋敷に持ってきたところ、寝ている時に起こされ、庚申さまは前の場所がよいと言って寝かせてくれなかった。前の場所にも戻したところ何もなくなったという言い伝えがある。正徳3年(1713)造立。

3

ふりがな せんじゆかんのんどう「せんじゆかんのん」
 名称 千手観音堂「千手観音」

地区 南畑
 東大久保
 (観音寺跡)

種別 仏像
 時代 近代

指定



観音堂の中に納められている。千手眼観音自在菩薩とも言われ、頂上に十一面をいただき、千の手と千の眼を持つ。

4

ふりがな ごうくらあと
 名称 郷蔵跡

地区 南畑
 東大久保

種別
 時代 近世

指定



新井家は「お蔵」という屋号で呼ばれ、江戸時代の「郷蔵屋敷」の跡である。慶安元年(1648)の検地帳に「郷蔵屋敷五畝二十六歩」とあり、川越領となった江戸初期には郷蔵は建てられていたようである。

5

ふりがな すいじんひ
 名称 水神碑

地区 南畑
 東大久保

種別 石造物
 時代 近世

指定



水神は魚捕りの仲間が水難防止を願って祀ったものと言われている。正面に「水神」と刻まれている。文化8年(1811)造立。

6

ふりがな おわりけはいりょうの「まきのき」
 名称 尾張家拝領の「槇の木」

地区 南畑
 東大久保

種別 民俗、植物
 時代 近世

指定



江戸時代、尾張家の鳥見役をつとめた二代目勘兵衛が殿様から拝領したと言われる。新井氏によると鷹がとまった槇だと伝えられている。

7

ふりがな けっかいし
名称 結界石

地区 南畑
東大久保
(長谷寺)
種別 石造物
時代 近世
指定



山門の所に立つ結界石には「不許葷酒入山門」とある。修行の厳しい禅宗の寺に多く、不浄なものや、心身を乱すものは山門に入ることは許さない、という自戒であり宣言でもある。葷とはニラ、ネギ、ニンニク、唐辛子などをいい酒と共に修行の妨げになる。

8

ふりがな うはつきゅう
名称 烏八臼

地区 南畑
東大久保
(長谷寺)
種別 石造物
時代 近代
指定



不思議な文字のある墓石は無縁塔の中にある室町時代中期から江戸時代の中頃の墓に見られたもの。辞典にも記載がなく、文字を分解して烏八臼(うはつきゅう)と読み、意味も吉祥成就、滅罪成仏と推測される。古い個人墓が総合整理される中では貴重。

9

ふりがな 「おおやませきそんごんげん」(せきそんさま)
名称 「大山石尊権現」(石尊さま)

地区 南畑
東大久保

種別 石造物
時代 近世
指定



農神、水神として大山阿夫利神社信仰により、元禄8年(1695)造立。

10

ふりがな いぼとりじぞう(とうがらしじぞう)
名称 いぼとり地蔵(とうがらし地蔵)

地区 南畑
東大久保

種別 石造物
時代 近世
指定



手にいぼがある子どもが、土で丸めた団子を地蔵に供えたところ、その晩、枕元に地蔵が現れ杖でいぼをなでてくれ、目を覚ますといぼが無くなっていった。母親が白米の団子を作り、地蔵にお礼をしたという。その後、手足にいぼできて困っている人が黒い団子を供え、願いがかなうと白い団子を白い紙にのせて供えてお礼参りしている。正徳3年(1713)造立。

11

ふりがな なんばたごはし
名称 南畑五橋

地区 南畑
東大久保

種別 建造物
時代 現代
指定



新河岸川放水路とびん沼川に架かる橋は、西から東大久保橋、上手橋、金子街道橋、三本木橋、舟渡橋と五橋ある。

12

ふりがな てんじんしょうしゃ(てんじんしゃ)のせきぞうぶつ
名称 天神小社(天神社)の石造物

地区 南畑
東大久保

種別 石造物
時代 近世
指定



元は三本木橋上流約50mの川の真ん中付近にあったと言われる。金子氏(後の難波田氏)の館跡があったとも言われ、その鬼門除けの天神社ではないかとの説もある。

13

ふりがな びんぬまりくてんかいたくひ
名称 蛭沼陸田開拓碑

地区 南畑
東大久保

種別 石造物
時代 現代

指定



昭和25年(1950)、ソトノ(外野)と呼ばれる蛭沼の約11町5反の畑地が陸田化し、水稻と麦の二毛作ができるようになった。その後の経緯も含め、平成8年(1996)、蛭沼陸田開拓のあゆみとして、歴史を後世に伝えるために建てられた。

14

ふりがな しらこぼと
名称 シラコバト

地区 南畑
東大久保

種別 動物
時代

指定 国(天然記念物)



東大久保時田家付近に県の鳥に指定されているシラコバトが住みついている。白小鳩は、埼玉県の県鳥で天然記念物に指定されている。全体淡褐色で首の後ろに白く縁取りされた細い黒色の斑紋がある。

15

ふりがな くるまじぞう
名称 車地藏

地区 南畑
東大久保

種別 石造物
時代 近世

指定



元禄8年(1695)造立の高さ約1mの延命地藏。これを車地藏と呼ぶのは、祠の親柱に木製の車が付けてあって、念仏を唱えながら回せば極楽往生が約束されるといい、念仏を知らない人でも、回す音が地藏尊に伝わって二世安穩がかんうと言われていた。車は念仏車、輪廻車、後生車などと呼ぶ。この形と木製は県内でも珍しい。

16

ふりがな きゆうおおさわけじゆうたく・おもてもん
名称 旧大澤家住宅・主屋

地区 南畑
下南畑568-1
(難波田城公園)

種別 建造物
時代 近世

指定 市(有形)



木造平屋一部二階建、寄棟茅葺の古民家。桁行12間半、梁間4間。大澤家は、江戸時代の初めから大久保村の名主をつとめ、農業を営むかたわら明治時代には養蚕も行っていた。幕府の役人を迎える「式台」があり、オクザシキには付書院といった特別な造りも見られる。棟札から明治4年(1871)の建築。現在は難波田城公園に移築。

17

ふりがな おおさわけじゆうたく・おもてもん
名称 大澤家住宅・表門

地区 南畑
東大久保

種別 建造物
時代 近世

指定 市(有形)



建築年代は不明だが、慶応2年(1866)の武州一揆の際につけられたという刃物の傷が柱に見られることから、それ以前の建築と推定される。桁行10.5間、梁間2間の木造平屋建て、屋根は寄棟造の棧瓦葺。戦前に一部改築されたが、平成19年(2007)の改修で、建築当初の姿に戻した。

18

ふりがな おおさわけじゆうたく・こくぐら
名称 大澤家住宅・穀蔵

地区 南畑
東大久保

種別 建造物
時代 近代

指定 市(有形)



桁行3.5間、梁間2.5間の土蔵平入の2階建。屋根は置屋根切妻の棧瓦葺。かつては、主屋、表門、穀蔵のほか土蔵、味噌蔵、文庫蔵も建っていた。

19

ふりがな おおくぼむらさかいかねこみちうちえず

名称 大久保村境金子道杭打絵図

地区 南畑
下南畑568-1
(難波田城資料館)

種別 古文書

時代 近世

指定



嘉永6年(1853)頃、大久保村(富士見市)と渋井村(川越市)の境にある金子道にあった二つの水路の絵図。伊佐沼から下南畑村へ引かれた二間堀用水と渋井、古市場、久下戸の3ヵ村から荒川へ流した悪水吐の水門が、以前より大きくなったため、大久保村が水があふれて困ると川越藩へ訴えた。大澤誠家文書。

20

ふりがな おおくぼむら・かみなんばたむらつちあげでいりたちあいえず

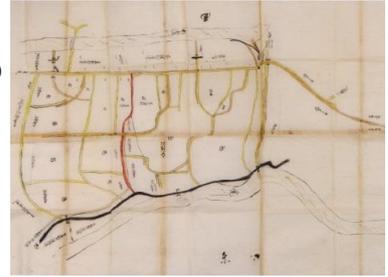
名称 大久保村・上南畑村土上置出入立会絵図

地区 南畑
下南畑568-1
(難波田城資料館)

種別 古文書

時代 近世

指定



享和元年(1801)、大久保村と上南畑村が村境の道の高さめぐっての争いの時に作成された絵図。大久保村は、上南畑村が村境の道に土を置いたため、田の水はけが悪くなったと訴えた。幕府評定所にて吟味され、地図の作成が命じられた。大澤誠家文書。

21

ふりがな いしばしきょうとう

名称 石橋供養塔

地区 南畑
東大久保

種別 石造物

時代 近世

指定



砂井戸からの湧水が集まり、小川となり、現在の県道を横切り田を潤していた。そこに架かっていた石橋の供養のための碑。文化元年(1804)造立。

22

ふりがな すながわひかん

名称 砂川樋管

地区 南畑
上南畑、勝瀬

種別 建造物

時代 近代

指定



大正～昭和にかけての新河岸川改修の際に建造されたコンクリート製の樋管。この河川改修の建造物として現存する唯一のもの。昭和2年(1927)建造。

23

ふりがな どうばのべんざいてん

名称 道場の弁財天

地区 南畑
上南畑

種別 民俗、石造物

時代 近世

指定



享保7年(1722)、講中8人で造立。当時この辺りで疫病が続いていた。人は用水を埋めては田にすることへの水神の怒りでは、と巳待講を作って弁財天を祀ったところ間もなく収まったという。像には大黒天と毘沙門天が添え彫りされており、七福神信仰の流れをくむ珍しいもの。

24

ふりがな いしじょう

名称 石地藏

地区 南畑
上南畑
(蛇木墓地)

種別 石造物

時代 近世

指定



講中15人の願主の名が刻まれている。その中に蛇木河岸の船問屋清左衛門、治兵衛2名の名もある。宝暦4年(1754)造立。

25

ふりがな えんまだいおう
名称 閻魔大王

地区 南畑
上南畑

種別 仏像
時代 近世

指定



道場の集会所所在。かつて1月と7月の縁日には、閻魔堂は村祭りになみに賑わったという。

26

ふりがな ふてこづか
名称 筆子塚

地区 南畑
上南畑
(旧東光寺墓地)

種別 石造物
時代 近世

指定



この無縫塔は、寺子屋が全国に広まる幕末よりも200年も前に寺子屋を開いた承寛上人のもので、高潔な人格から「東光寺の聖人」と讃えられた。この筆子塚は弟子たちが師に対する報恩の目的で造ったもので、下段に農民の弟子9人の名があり、この種のものでは県内最古であるという。延宝4年(1676)造立。

27

ふりがな うまのひなんじよきゆうげんばちいなり
名称 馬の避難所・旧源八稻荷

地区 南畑
上南畑
(南中下集会所)

種別 民俗
時代 近世

指定



文化年間(1804~1827)、町田家の先祖銀八が、自分の田に盛り土をして家畜を洪水から守るための避難場所を作った。盛り土の高さは約1.5mである。

28

ふりがな たそがれじぞう
名称 たそがれ地蔵

地区 南畑
上南畑

種別 石造物
時代 近世

指定



江戸時代、秩父・御岳山・川越方面の武将、商人、飛脚などの人々が江戸への近道として羽根倉の渡し場を通り、中山道・浦和・戸田方面に通じていた。江戸を発ち、この地蔵近くに来ると夕暮れとなり、また秩父方面から来ても夕暮れとなることから、こう呼ばれたという。享保13年(1728)造立。

29

ふりがな おんたけづか
名称 御嶽塚

地区 南畑
上南畑

種別 民俗、石造物
時代 近代

指定



荒川九太郎氏が造立したもの。溶岩で築いた塚の上に碑があり、中央に御嶽大明神、左に三笠山大神、右に八海山大神。塚の下にある碑には東京の講中の名が刻まれ、東京方面から参拝に来たという。昭和5年(1930)造立。

30

ふりがな あたごさまの「しょうぐんじぞう」
名称 あたご様の「勝軍地蔵」

地区 南畑
上南畑

種別 石造物
時代 近世

指定



「南畑村之沿革史」によると、「愛宕神社は字名虫喰の塚上にあり、田中組の所有にて6月23日夜祭典あり相当賑わう」とある。祠の中には馬にまたがった勝軍地蔵が祀られている。

31

ふりがな きゅうしんがしがわかいたくきねんひ

名称 旧新河岸川開拓記念碑

地区 南畑
上南畑

種別 石造物
時代 現代

指定



廢川となった敷地の土地改良の竣工を記念した旧新河岸川開拓記念碑。昭和54年(1979)造立。

32

ふりがな なんばたばしのうつりかわり

名称 南畑橋のうつりかわり

地区 南畑
上南畑

種別 建造物
時代 近世～現代

指定



江戸時代は「板橋」、舟運時は「太鼓橋」、大正時代の河川改修で約100m西に移動しコンクリート橋になる。同時に道路も1m以上高くなる。平成になり橋の架け替えが行われ、道路はさらに高くなっている。

33

ふりがな せんげんさま(せんげんたいしん)

名称 浅間さま(浅間大神)

地区 南畑
上南畑

種別 民俗、石造物
時代 近代

指定



昭和4年(1929)に南畑村富士講により築造されたもの。南畑村の富士講信者は大井村富士講に入っていたものを分講したようである。頂上の石碑に「大井村親講より分講」とある。分講は文化12年(1815)6月。昭和4年の築造当時の講員は70名である。

34

ふりがな なんばたぎんざ・はしば

名称 南畑銀座・橋場

地区 南畑
上南畑

種別 民俗
時代 近世～近代

指定



江戸～明治時代の新河岸川の舟運が盛んな頃、旧「南畑橋」周辺は船着場になっていた。端から東へ約100mの範囲に当時としては珍しく商家が並んでいた。明治時代以降は村役場や駐在所もでき、村の行政の中心地となり「南畑銀座」と呼ばれた。現在は、家並み等は変わったが、家の配置や近所付き合い等は変わっていない。

35

ふりがな えんめいがたふながたこうはいじぞう

名称 延命型舟型光背地蔵

地区 南畑
上南畑
(金蔵院墓地)

種別 石造物
時代 近世

指定



上野三右衛門先祖の墓。地蔵の石仏墓標と云えば、富士見市最古の逸品と言われている。江戸時代初期の作と言われている。

36

ふりがな しぶやていすけ・れいこふさいのはか

名称 渋谷定輔・黎子夫妻の墓

地区 南畑
上南畑
(金蔵院墓地)

種別 石造物
時代 近代

指定



南畑出身の農民運動家、農民詩人である渋谷定輔(1905～1989)と妻黎子(1909～1934)の墓。定輔の著書には「農民哀史」、「詩集野良に叫ぶ」、黎子の著書には「この風の音を聞かないか」などがある。

37

ふりがな おおすぎこうちゅうのひ
 名称 **大杉講中の碑**

地区 南畑
 上南畑

種別 石造物
 時代 近代

指定



茨城県の大杉神社信仰で船頭や舟運関係者の守り神として広く信仰され、南畑、水子、高階、福岡、勝瀬村の51名の寄付者が刻まれている。大正7年(1918)造立。

38

ふりがな みずこしさま(かみなんばたじんじゃ)
 名称 **水越さま(上南畑神社)**

地区 南畑
 上南畑

種別 民俗、建造物
 時代 近世～

指定



上南畑神社は、通称「水越さま」と呼ばれている。新河岸川が氾濫した際、どこからかご神体が流れつき鎮座した。それを当地の住民が「氏神様」として祀ったという。水を越してきた神様なので「水越さま」の愛称で呼ばれている。本殿、拝殿、社務所、神楽殿、手水舎から成る。

39

ふりがな かみなんばたじんじゃのほうのうがく
 名称 **上南畑神社の奉納額**

地区 南畑
 上南畑
 (上南畑神社)

種別 歴史
 時代 近代

指定



川越の彫刻師野本民之助義明が手掛けた額。川越まつりの幸町の山車(県指定文化財)をはじめ30程の作品を残している。樹齢400年以上のケヤキの一枚板で、横202cm、縦85cm、鶴と亀の彫刻がある。昭和2年(1927)の神社改修に合わせて製作されたが何らかの事情で奉納されなかったが、平成14年(2002)になって奉納された。

40

ふりがな たちいぬすがたのこまいぬ
 名称 **立ち犬姿の狛犬**

地区 南畑
 上南畑
 (上南畑神社)

種別 石造物
 時代 近代

指定



セメント造りの立ち犬姿をしたオスとメスの狛犬。昭和4年(1929)造立。

41

ふりがな みずこしもんぴ
 名称 **水越門樋**

地区 南畑
 上南畑

種別 建造物
 時代 近代

指定 市(有形)



明治37年(1904)に、水越排水に新河岸川からの逆流を防ぐために造られた煉瓦製の樋門。通水口の断面形はかまぼこ状のアーチ型、扉は観音開き構造。煉瓦の積み方はイギリス積みと呼ばれるもので、通水口上のアーチと上端部は意匠性を出している。表側に「水越門樋」、裏側に「明治三十七年二月」の銘板がつけられている。

42

ふりがな しゃぐじさま(しゃくじょうごんげん)
 名称 **シャグジさま(錫杖権現)**

地区 南畑
 鶴馬

種別 民俗、石造物
 時代 近世～近代

指定



地藏尊の杖を崇拝対象としたもの。南畑住民にとっては兵隊送りの別れの場所であった。昔から「シャグジさま」と呼ばれ、お堂や石碑があり樹木が植わり、ほっと一息入れられる一里塚的場所であった。また、慶應4年(1868)の彰義隊残党の処刑の地でもある。南畑と鶴馬の境にある。

43

ふりがな まるぼりこうしんとう
名称 **丸彫り庚申塔**

地区 南畑
下南畑
(興禅寺)

種別 石造物
時代 近世

指定



人身大で金石文が皆無であるが、下腹部の膨らみ具合からみて、江戸時代中期の造立と考えられる。珍しい丸彫りの庚申塔である。傍らに境界石「不許草酒入山門」がある。

44

ふりがな かわったかいみょう「じろうはいきゆうこじ」
名称 **変わった戒名「痔労輩救居士」**

地区 南畑
下南畑
(興禅寺)

種別 石造物
時代 近代

指定



「鯖江先生墓」の碑の裏面に「痔労輩救居士」の戒名が刻まれている。鯖江先生とは、明治18年(1885)に57歳で亡くなった鯖江龍太郎で南畑新田の町田家の一族。明治7~14年まで南畑小学校の代用教員をつとめた。生涯独身を通したという。

45

ふりがな しょうぎたいざんとう・ぶらいかんのくようひ
名称 **彰義隊残党・無頼漢の供養碑**

地区 南畑
下南畑
(興禅寺)

種別 石造物
時代 近代

指定



山門を入った左側にある地蔵の台石に「為一切精霊菩薩」と刻まれ、左側面には事件のあらまし、右側面には慶應4年(1868)に処刑された13名の天と誅の文字が入った戒名が刻まれている。

46

ふりがな さくべいさん(こやまさくべい)のはか
名称 **作兵衛さん(小山作兵衛)の墓**

地区 南畑
下南畑
(興禅寺)

種別 民俗、石造物
時代 近世

指定



江戸時代の元禄年間、下南畑村名主小山作兵衛の墓。伊佐沼から引水し、南畑用水堀(小山用水・作兵衛堀)として下南畑まで約10kmを約1年で竣工させた。作兵衛は、用水工事のため好物の酒を断って奔走し、竣工祝いの席で川越藩主松平伊豆守信輝から酒肴を賜り、大盃を三度飲みまして「南畑下戸に酒三升」との話が今に伝えられている。

47

ふりがな てんまんぐうせきし
名称 **天満宮石祠**

地区 南畑
下南畑
(興禅寺)

種別 石造物
時代 近世

指定



寺子屋では、学問の神として菅原道真を祀る天満宮を尊崇してきた。興禅寺の築山にある。寛政11年(1799)銘の天満宮石祠は、子どもたちの浄財で奉納されたもので、自分たちの神として崇拝し、勉強の意欲の向上に寄与してきたいという。

48

ふりがな なんばたじょう(なんばたしやかたあと)
名称 **難波田城(難波田氏館跡)**

地区 南畑
下南畑568-1
(難波田城公園)

種別 遺跡
時代 中世

指定 県(旧跡)



中世に活躍した難波田氏の城館跡。武蔵七党のひとつである村山党の金子氏を祖とする。標高6mの荒川低地の自然堤防上に築かれ、小さな館から、戦国時代に3重の堀を巡らした平城へ改修された。戦国時代後半に北条氏の支城となったが、同氏の滅亡で廃城となった。平成12年(2000)に「難波田城公園」として開園。

49

ふりがな ごりんづか
名称 五輪塚

地区 南畑
下南畑

種別 民俗、石造物
時代 中世～近世

指定



難波田氏の墓もしくは供養塔といわれる宝篋印塔の一部が2基残されている。戦いに敗れた後に、鎧などの供養品を埋めたといわれ、村人はここを掘ると災いがあると戒めあつてきた。塔をあばく者がいあれば、「白い馬にまたがった鎧武者が来る」という伝説が残されている。

50

ふりがな じゅうぎょくいんぼち
名称 十玉院墓地

地区 南畑
下南畑

種別 石造物
時代 近世～近代

指定



江戸時代の初期に、難波田氏との姻戚が縁で当地に移る。南城山八幡寺という修験宗の寺で、本山聖護院の直末として本山派日本28先達のうち、武蔵9ヶ寺中の一寺とうい格式を持っていた。墓地には延宝4年(1676)から明治までの住職の墓10基等がある。

51

ふりがな なんばたなおじろうのほひ
名称 難波田直次郎の墓碑

地区 南畑
下南畑568-1
(難波田城公園)

種別 石造物
時代 近代

指定



幼少だった十玉院の院主の後見人で、寺子屋の師匠も勤め墓碑には門人63名の名がある。明治20年(1887)造立。

52

ふりがな どうぞじん
名称 道祖神

地区 南畑
下南畑568-1
(難波田城公園)

種別 石造物
時代 近世

指定



道祖神は村境や辻などに立てて外部から悪疫などの侵入を防ぎ、村人の安全を守ってきた。市内にあるのは寛政11年(1799)と、明治32年(1899)の2基だが、旧所在地は不明。

53

ふりがな ぐんばかんぜおん
名称 軍馬観世音

地区 南畑
下南畑568-1
(難波田城公園)

種別 石造物
時代 近代

指定



日清・日露戦争に徴発された愛馬の供養塔か。明治27年9月29日と37年3月9日の年号がある。荒川河川敷(現在の運動公園)にあったものを移設。

54

ふりがな きゅうおおさわけじゅうたく・しゅや
名称 旧大澤家住宅・主屋

地区 南畑
下南畑568-1
(難波田城公園)

種別 建造物
時代 近代

指定 市指定



旧大澤家住宅は、棟札により明治4年(1871)に建築され、主屋は桁行12.5間、梁間4間の木造平屋建で屋根は寄棟造の茅葺、玄関は入母屋造の棧瓦葺。当時の民家としてはかなり大規模なもので、「式台」といわれる玄関は、名主の家として高い格式や役宅としての特徴を表している。現在は、難波田城公園内に移築された。

55

ふりがな たかばのくい

名称 鷹場の杭

地区 南畑

下南畑568-1

(難波田城資料館)

種別 石造物

時代 近世

指定



江戸時代の初期から、江戸より五里から十里までの間の地域は御三家などの鷹場として与えられ、市域の大半は尾張家の鷹場の北端に位置していた。境杭が二軒の旧家に保存されている。二本ともに折れているが、継ぎ足すと、長さ約1m、一辺約15cmの角柱に「従是南尾張殿鷹場」と彫られている。

56

ふりがな しねんごういたび

名称 私年号板碑

地区 南畑

下南畑568-1

(難波田城資料館)

種別 考古

時代 中世

指定



市内には私年号である「福德」銘の板碑が5基ある。室町時代後期の世情不安や天候の不順などで苦慮した人たちが、結集という信仰集団を作って板碑を造立した際、好転を願って公の年号である延徳の一部を改変して「福德」したもの。福德元年(1490)1基、2年が4基。福德銘は南関東にのみ分布。

57

ふりがな なんばたむらきねんひ

名称 南畑村記念碑

地区 南畑

下南畑568-1

(難波田城公園)

種別 石造物

時代 近代

指定



昭和36年(1961)に、元南畑村役場(当時・南畑出張所、現在JAIいるま野南畑支店)の敷地内に造立された。農業経営の発展を目指し農地の集団化を目的とした、昭和23～26年にわたる農地の「交換分合」の歩みが刻まれている。現在は、難波田城公園内に移設されている。

58

ふりがな どぞうのあるみづか

名称 土蔵のある水塚

地区 南畑

下南畑

種別 民俗、建造物

時代 近世～近代

指定



洪水から守るため土を盛り上げた水塚の上に建てられている。江戸時代後期、文化年間の建築と伝えられ、元は茅葺屋根であったという。

59

ふりがな なんばたむらどうろげんびょう

名称 南畑村道路元標

地区 南畑

下南畑

(JAIいるま野南畑支店)

種別 石造物

時代 近代

指定



旧道路法により各市町村へ設置されたもので、大正時代のものと思われる。設置当時この場所は、南畑村役場であった。

60

ふりがな なんばたむらしょうちゅうひ

名称 南畑村彰忠碑

地区 南畑

下南畑

(JAIいるま野南畑支店)

種別 石造物

時代 近代

指定



日露戦争戦死者8名と戦歴、日清戦争従軍者2名、日清・日露両戦争従軍者14名、日露戦争従軍者79名、第1次世界大戦従軍者4名の名が刻まれている。大正7年(1918)5月造立。

61

ふりがな やまがたひかん
名称 山形樋管

地区 南畑
下南畑

種別 建造物
時代 近代

指定 市指定



明治37年(1904)に、氷川排水に新河岸川からの逆流を防ぐために造られた煉瓦製の樋門。通水口の断面形は箱状、扉は引上げ式。煉瓦の積み方はイギリス積みと呼ばれるもので、上端部は意匠性を出している。水路工事に伴い現在の場所に移設した。

62

ふりがな きゅう「しんがしがわ」のていぼう
名称 旧「新河岸川」の堤防

地区 南畑
上南畑～下南畑

種別 堤防
時代 近世～現代

指定



旧新河岸川沿いの自然堤防。南畑公民館付近～木曾目堤～佃堤付近。昔の自然堤防は主に道路として利用されていたようだが、その途中に寺社などができ、道路は中断され道路は迂回している。その他は、自然のまま放置されたり道路として整備されて現在も拡充利用されている。

63

ふりがな きそめばし
名称 木染橋

地区 南畑
下南畑

種別 建造物
時代 近代～現代

指定



木染橋は、昭和初期に木橋ができたのが最初である。当時の橋は、幅約2間の冠水橋であったという。2代目は終戦後、3代目は昭和58年(1983)で、新河岸川の拡幅に伴い架け替えられた。秋になれば川面に木々の色を映し、美しい風景であった。木々の色で水面を染めたことから木染の名となったと言われている。

64

ふりがな すいじんぐうひ
名称 水神宮碑

地区 南畑
下南畑
(新河岸川堤防上)

種別 石造物
時代 近代

指定



漁業関係者や子どもたちの水難防止を願って、水子・南畑・宗岡村の漁業組合関係者などによって建てられた。明治35年(1902年)造立。

65

ふりがな しもなんばたのゆうほどう
名称 下南畑の遊歩道

地区 南畑
下南畑

種別
時代 現代

指定



標識に「昭和60年指定美しいむらづくり事業により整備」と記されている。現在、遊歩道に入ると、わずかに小川が流れているが、忘れ去られている。

66

ふりがな しもなんばたてんじんしゃ
名称 下南畑天神社

地区 南畑
下南畑

種別 建造物
時代 近世～近代

指定



江戸時代の難波田城の絵図に描かれていることから、城を鎮護するための建てられたのであろう。江戸時代には城跡が十玉院となり寺子屋が開かれると筆子の守護神ともなった。また、毎年2月25日を例祭とし花嫁の初詣が盛んであったという。

67

ふりがな なんばたはちまんじんじゃしまい

名称 南畑八幡神社獅子舞

地区 南畑
下南畑
(南畑八幡神社)種別 民俗
時代 近世～

指定 市(民俗)



7月の夏祭(天王様)と10月のお日待に、悪疫退散と五穀豊穡を願い南畑八幡神社獅子舞保存会による獅子舞が奉納されている(現在は休止中)。起源は明らかではありませんが、江戸時代末には行われていたと言われ、男獅子・女獅子・中獅子・猿若太夫(山の神)によって舞われる「ささら獅子舞」である。

68

ふりがな なんばたはちまんじんじゃほんでん

名称 南畑八幡神社本殿

地区 南畑
下南畑
(南畑八幡神社)種別 建造物
時代 近代

指定



本殿は、昭和16年(1941)に県立川越中学(現川越高校)内に建てられた奉安殿を戦後になって移築したもの。この奉安殿は東京帝国大学で西洋建築を学んだ建築家、室岡惣七が設計した。室岡の設計した建築物には、入間市の旧石川組製紙西洋館や川島町の遠山記念館・旧遠山元一郎邸がある。

69

ふりがな なんばたはちまんじんじゃのはたさおたて

名称 南畑八幡神社の旗竿立

地区 南畑
下南畑
(南畑八幡神社)種別 石造物
時代 近代

指定



紀元二千五百四十年(明治13年)銘。

70

ふりがな なんばたはちまんじんじゃわにぐち

名称 南畑八幡神社鰐口

地区 南畑
下南畑
(南畑八幡神社)種別 歴史
時代 中世

指定 市(有形)



鰐口には、応永期(1394～1428)に中山大明神(現川島町か)に奉納されたものを、永禄期(1558～1569)前後に難波田与太郎が小代の八幡社(東松山市宮鼻の八幡神社か)に再度奉納したことが刻まれている。直径約20cmの小型のもので、両肩にはつるすための小さな耳がついている。

71

ふりがな まえごうちかんのんどう・きたむきかんのん

名称 前耕地観音堂・北向き観音

地区 南畑
下南畑種別 石造物
時代 近世

指定



三面二臂の馬頭観音立像。台座には、十玉院を先頭に7人の名が刻まれている。寛文12年(1672)造立で、市内で2番目に古い馬頭観音である。高さは市内最大で140cm、三面二臂像は1基のみ。

72

ふりがな かくしょうあん

名称 鶴松庵

地区 南畑
下南畑
(鶴松庵)種別 史跡
時代 近世～現代

指定



埋葬墓地と石塔墓地の両墓制の墓地の敷地内にある。起源はもともと一般の民家だったが、その家が絶えたので霊を慰めるために庵を設けたという伝承がある。江戸時代正徳3年(1713)～享保9年(1724)に創立したと推定される。阿弥陀如来を本尊とし、現在は鶴新田集会所と呼ばれている。

73

ふりがな かいこくとう
 名称 回国塔

地区 南畑
 下南畑
 (鶴松庵墓地)

種別 石造物
 時代 近世

指定



観世音菩薩は33に姿を変えて人々を救い利益を与える仏と信じられ、平安時代末頃から西国33ヶ所観音霊場の巡拝が始まった。その後、坂東33ヶ所、秩父34ヶ所が整うと百ヶ所巡りへと発展した。この塔は四国八十八ヶ所まで足を延ばした遠大な巡拝塔である。天明8年(1788)造立。

74

ふりがな かくしょうあんのにのこるのりこえもんびのめいばん
 名称 鶴松庵に残る乗越門樋の銘板

地区 南畑
 下南畑
 (鶴松庵墓地)

種別 建造物
 時代 近代

指定



煉瓦製樋門である乗越門樋の銘板だけが、鶴松庵の敷地内に残されている。改修により壊されたものの銘板だけが鶴松庵に置かれたようである。乗越門樋は、南畑大水路に新河岸川からの逆流を防ぐために造られ、水越門樋とほぼ同規模だったようである。銘板には、「〇〇門樋」、「明治三十二年五月」とある。

75

ふりがな あさひみょうけんどうのうかくしん・むかくしん
 名称 朝日妙見堂の宇角神・無角神

地区 南畑
 下南畑

種別 建造物、石造物
 時代 近世

指定



朝日妙見堂裏にある宝暦3年(1753)銘の塔には、宇角神、無角神とある。神仏関係の事典にも記載がない。ある人は日本古来の食物の神宇角神だといひ、ある人は石屋も専門家だから、初耳の注文でも談笑のうちに正解にたどりついたはずだといふ。

76

ふりがな けんちょう4ねんいたび
 名称 建長四年板碑

地区 南畑
 南畑新田

種別 考古
 時代 中世

指定 市(考古)



梵字(種子)の下に建長4年(1252)6月1日と刻まれており、鎌倉時代中頃(1252)に造立されたもの。大型で尖頂有額という板碑発生期の特徴をもつ市内最古のもの。

77

ふりがな かせんじきのやなぎ
 名称 河川敷のヤナギ

地区 南畑

種別 民俗、植物
 時代
 指定



河川敷には様々な動植物がある。特にヤナギは強い。増水しても流されず、ゴミがついても弾力性で凌ぎ成長する。新河岸川河川敷各所で見られる。生き物の住処ともなる。

78

ふりがな なんばたすいでんふうけいしょうちょうするはんのき
 名称 南畑水田風景を象徴するハンノキ

地区 南畑

種別 民俗、植物
 時代
 指定



水田の畔に稲のはざ掛け用、川岸に護岸用や治山の植栽木として植えられた。材は薪炭・建築・器具・楽器などに使用していた。昔の水田地帯には当たり前の木だったが、榛の木の畦道は今では珍しい風物となっている。雌雄同株。三月ごろ、葉の出る前に暗紫褐色の尾状の雄花穂と、紅紫色の小さい雌花穂をつける。果実は松かさ状で、染料として用いていた。

